

2. 維持管理の基本方針

安全・安心な市民生活を損なうことのないよう、施設ごとに『予防保全』の考え方を軸とした維持管理計画を策定し、施設を構成する部材の特性に応じて状態監視型または予測計画型の方針を設定しています。

予め設定した方針により、それぞれの管理水準を確保するため、定期点検により施設の状態を継続的に監視するとともに、適宜、必要な修繕を行うことで、市民の安全を確保しつつ、適切かつ効率的な維持管理に取り組んでいます

施設	防潮堤	
部材	コンクリート部材	鋼部材等
方針	予防保全(状態監視型)	予防保全(予測計画型)
概念図		
概要	点検結果等により劣化や損傷等の変状を評価し、必要な場合に補修や部分更新等を行う。	蓄積した点検結果を元に劣化を予測し、最適なタイミングで補修等を行う。

区分	説明
限界管理水準	<ul style="list-style-type: none"> 施設の安全性・信頼性を損なう不具合等、管理上、絶対に下回れない水準。 一般的に、これを超えると大規模修繕や更新等が必要となる。
目標管理水準	<ul style="list-style-type: none"> 管理上、目標とする水準。 これを下回ると補修等の対策を実施する必要がある。 目標管理水準は、不測の事態が発生した場合でも対応可能となるよう、限界管理水準との間に適切な余裕を見込んで設定する。
予測計画型の場合	<ul style="list-style-type: none"> 劣化予測が可能な施設(部位・部材等)で、目標供用年数(寿命)を設定した上で、ライフサイクルコストの最小化など、最適なタイミングで最適な補修等を行う水準。